

## 文献紹介

山田雅晴, 2004. 高田平野中・北部におけるコハクチョウの増加. 野鳥新潟 (128): 10.

高田平野にはオオハクチョウとコハクチョウが飛来するが, 積雪による採餌条件がよくないため, 高田平野はおもに渡り中継地となっていた. しかし, 最近はや暖冬少雪傾向のためある程度まとまった数のコハクチョウが見られるようになった. また上吉野池が1999/2000年の冬に短期ねぐらとして利用されるようになり, その後銃猟禁止になったため2003/2004年にはコハクチョウが350羽近くになった.

阿部武, 2007. 福島県中通りに飛来する白鳥の幼鳥割合. 福島生物 (50): 23-27.

阿武隈川沿いのハクチョウ渡来地17か所で2007年1~3月に幼鳥の割合を調べた. この地域の渡来数は3,300羽前後で, このうち平均43%がコハクチョウであった. 幼鳥の割合は, コハクチョウで平均 $14.2 \pm 2.0\%$ (95%信頼限界), オオハクチョウで平均 $16.5 \pm 2.1\%$ であった. 2005/2006年の茨城県南部と千葉県におけるコハクチョウの幼鳥割合は17~29%と福島県におけるより高く, 幼鳥を含む家族群はより南に渡っているとおもわれる.

渡辺朝一, 2008. 新潟市鳥屋野潟で観察されたコハクチョウによるキシユウスズメノヒエ稈への採食行動. 新潟県生物教育研究会誌 (43): 35-36.

普通採食場に使う水田が積雪で被われたとき, 鳥屋野潟で100羽近いコハクチョウが水中に首を入れ, キシユウスズメノヒエの稈を引き出しては食べているのが観察された. この地域におけるこれまでの観察から, このような採食例はまれである.

渡辺朝一・渡辺央・山本明・清水幸男, 2008. 池沼におけるガン・ハクチョウ類の食物としてのマコモの重要性と種による採食方法の違い. 日本鳥学会誌 57: 97-107.

1997年11月~1998年2月に日本各地の沼でガン・ハクチョウ類の食物内容を調べた. オオヒシクイ, オオハクチョウ, コハクチョウは複数の沼で水草を採食しているところが多く記録された. この3種ともマコモの地下茎が沼における食物内容の50%以上を占めていた. ヨシやヒメガマ, 沈水植物に対する採食行動はわずかであり, これらの種のガン・ハクチョウ類に対する食物資源としての重要性は低いものと思われた. オオヒシクイ, オオハクチョウは頻繁に沼で採食し, マガンは沼でまり採食しないと考えられた. コハクチョウも複数の沼で採食したが, 越冬個体数の多い越後平野での記録が比較的少なく, 多くの個体群は沼であまり採食しないようであった. マコモの

地下茎の菜食方法は、オオハクチョウでは水面で、コハクチョウでは地上での菜食が多く、マコモの生育条件により利用する種が異なる可能性が示された。

## ニュースから

6月14日にヒナ3羽を連れたオオハクチョウのつがいを今年も湖岸で発見しました。もともとオオハクチョウはシベリアなどの湿原で子育てをする野鳥ですが、このウトナイ湖ではケガをして北へ帰れなくなったメスと飛ぶことのできるオスが夫婦となり、6年前から毎年1つがいが繁殖しています。3月には野生鳥獣保護センター正面に位置する対岸のヨシ原に巣をつくっていましたが4月上旬に中断し、それ以降営巣や抱卵が観察されなかったことから、繁殖に失敗したものと思われていました。キツネなどに捕食されたのか、残念ながら去年は生まれたヒナ5羽が成鳥になる前にすべていなくなっています。今年は無事育つでしょうか。（「ウトナイだより」No. 23, 2008年7月発行）